

# 人と人との絆を知る

原子価論に基づくメンタルヘルス&ハラスメント研修報告書



岡山大学  
OKAYAMA UNIV.

## 目 次

---

はじめに	4
研修報告1. メンタルヘルス研修	7
研修報告2. ハラスメント研修	15
研修報告3. ハラスメント研修（筑波大学）	21
原子価論Q & A	26
原子価論に関する参考文献	28
原子価査定テスト	29
女性サポート相談室 活動報告	31
1. 女性サポート相談室の概要	
2. 女性サポート相談室の相談状況	
3. キャリアカフェ実施	
4. 学内外研修活動	
5. 学内・県内外の関係機関との連携活動	
6. 他機関における事業活動への参加および情報交換	
7. その他関係資料	

# はじめに



岡山大学大学院  
環境生命科学研究所 教授  
岡山大学ダイバーシティ推進本部  
男女共同参画室 室長

## 沖 陽子

### ごあいさつ

「絆」という言葉は、2011年3月11日に発生した東日本大震災以降、皆様の脳裏に再認識された言葉ではないでしょうか。「絆」とは、「人と人との断つことのできないつながり」です。現在、家族の絆、地域における絆、キャンパス内での絆など、「絆」の大切さを理解していながら、自由闊達に「絆」を結べない社会に陥っているように見受けられます。そんな折り、岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室に設置しております女性サポート相談室から「人と人との絆を知る」という研修報告書を発行する運びとなりました。

岡山大学では、ダイバーシティ推進本部男女共同参画室を平成21年1月に開設し、その後、平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に「学部・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」が採択され、我々の活動に弾みがつきました。その事業の一環として、「女性サポート相談室」を設置し、臨床心理士の資格を有する小畑千晴相談員をお招きして、地道な活動を繰り広げてきました。大学の構成員は教員、職員そして学生ですが、各々の構成員に広く相談室の門戸を開放しております。その活動内容は本報告書の後半部に記載しておりますので、ご一読ください。我々の活動が学外でも高く評価され、平成23年度から文部科学省科学技術人材育成費補助金テニュアトラック普及・定着事業にも採択されて、今日に至っております。

さて、本報告書の研修テーマである「原子価論に基づくメンタルヘルス&ハラスメント」ですが、「原子価論」といわれますと、自然科学系の者にとっては、非常に魅力を感じます。小職自身、臨床心理学に活用される「原子価論」の概念を面白く研修会で拝聴いたしました。その後、自分自身を含めて我が研究室の教員や学生達に原子価論の質問表を試してみました。その結果、「人と人との繋がり」の法則があぶりだされるようで、研究室内での「絆」の構成の複雑さが的確に把握できました。教育の現場で活用できることが立証されたように感じました。家庭、職場、地域など、どの場面でも納得できる人の繋がりが見えてくる思いです。まずは、皆様方へ本報告書をご覧いただき、人と人との絆を知って、健康的な原子価を育てていただきたいと切に願うようになりました。ご質問や感想等をお寄せいただければ、さらに本室との絆が深まります。

岡山大学男女共同参画室は、今後も男女共同参画社会構築に向けて活動いたします。皆様方の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。



岡山大学大学院  
医歯薬学総合研究科医療人キャリアセンター  
MUSCATセンター長  
地域医療人材育成講座 教授  
男女共同参画室 ライフサポート部門 部門長

## 片岡 仁美

2009年度より、女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）における研究サポート体制を整備する一部署として始動することになった女性サポート相談室は、女性研究者を中心とした女性教職員のキャリアと心理的支援を目的として開設され、2012年度からは、文部科学省科学技術人材育成補助金 テニュアトラック普及定着事業として、引き続き活動を継続しています。

女性研究者支援のほかにも、岡山大学では医療分野における女性の継続的な就労とキャリアアップ支援を目指した『女性を生かすキャリア支援計画（文部科学省平成19年度（2007年度）医療人GP）』とそれを発展させるプロジェクトである『MUSCAT プロジェクト』（「岡山県女性医師キャリアセンター事業」）など、多面的に女性を支援する活動が行われています。

それでも、女性医師、女性研究者のどちらもがキャリアアップを目指しながら、子育てや家事を行うことは今なお厳しい環境にあり、それぞれの自助努力に負うところが大きいのが現状です。そうした中で、設置された女性サポート相談室の役割は非常に重要であると考えています。

現在、日本社会において女性の活躍が一層求められています。女性が生き生きと活躍できる社会に向けて、本相談室のような取り組みがその一助となるよう祈念してやみません。





岡山大学  
ダイバーシティ推進本部  
男女共同参画室  
女性サポート相談室  
コーディネーター/相談員

## 小畑 千晴

岡山大学には、精神的サポート体制として、学生相談室・保健管理センター・ハラスメント相談室が設置されていますが、女性サポート相談室は、女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）の一環として女性研究者を中心とした女性教職員の心理的支援を目指す新しい切り口として開設され、今年度からはテニュアトラック（TT）普及定着事業として引き続き活動を行っております。

女性サポート相談室では、個人のカウンセリングだけでなく、子育てと仕事の両立を図る女性たちがグループになりそれぞれの悩みを話し合う Career Café の定期的な開催や、次世代育成支援室との共同イベントとして Family Meeting を実施し、就学前の子どもを育てている教職員が家族を含めて交流を広げる機会を設けるなど、岡山大学で働く女性たちの支援と、男女共同参画の意識を広げて参りました。今年度新たな活動として実施いたしました研修は、テニュアトラック（TT）普及定着事業の一役を担うことになったことを契機に、TT 教員がテニュア教員になるために、この時期に優れた研究成果をあげることだけでなく、学生や他教職員を含む周囲との良好な人間関係の構築、及び学生指導や理解と対応に貢献することを主な目的に実施しました。

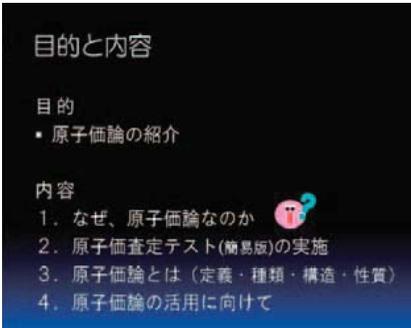
内容は、いずれも臨床心理学、とりわけ「原子価論」という観点から、メンタルヘルスやハラスメント等の問題についてどう理解し取り扱うのかについて述べています。時間的な制限や説明の不十分さもあり、ご参加いただいた方から研修後にさまざまなご意見、質問をいただきました。こうした声にお応えするために、今回このような報告書を作成することになりました。報告書内に掲載した研修は、理論的背景は同じですが、それぞれに目的が違います。7月に実施した「目には見えない人と人との繋がり方を知る 原子価論からみる人間関係」はメンタルヘルス研修として、11月に実施しました環境理工学部のハラスメント研修はその問題に触れながらも、日頃学生指導に関わる教員を対象に学生の問題行動の理解を主な目的にしています。最後に、12月に筑波大学での研修は、ハラスメント問題の理解とその対応であり、同一の理論的立場から語っていますが、理解する現象が異なります。従いまして、スライドに類似した部分がありますが、割愛せずそのまま掲載しておりますことをご了承ください。

# 研修報告 1



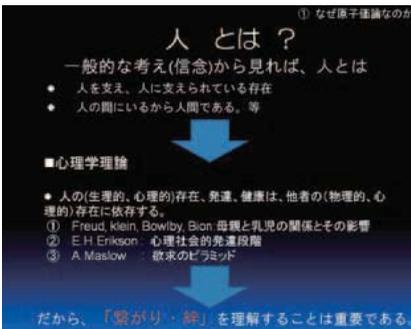
精神的な病気によって休職する人が増加していることから、職場環境の改善、メンタルヘルスといったことへの関心が高まっています。本日お越しいただきました皆さまも、もしかすると職場で、研究室の中で、さまざまな人間関係によるストレスを感じていらっしゃるかもしれません。

今日は、精神的な疲労、ストレス、悩みなどの軽減・緩和とそれへのサポートを目的としまして、心理学における1つの立場である「原子価論」からお話させていただきます。



「原子価論」とは、一言で言えば人と人との繋がり方を知るための理論と言えます。

まだ新しい理論であるわけですが、なぜ今日この原子価理論を取り上げるのかという基本的な疑問を最初に説明しまして、次に、この理論に基づいたテストがございますので、それを皆さまに体験していただけます。そして、テストの結果のフィードバックを兼ねながら、原子価論の定義・種類や構造、性質を説明いたします。最後に、この原子価論を活用できるヒントなどを申し上げて終わりたいと思っています。



なぜ原子価論なのかを説明する前に、まず人をどう捉えるかというところから始めますと、一般的には、人という文字が示唆しているように、人を物質的に、身体的に精神的に支え、支えられている存在であり、人の中にいるから人間だと理解されています。心理学理論では、フロイトは、乳児の健康が母親との関わりに強く依存していると述べていますし、エリクソンも、母親を出発として、その時期に応じた重要な他者との繋がりを通して心理的な課題を達成することが健康な自我に重要だと述べています。またマズローは、社会や人との安定した状況や関わりの中で、欲求が変化し満たされていくと主張しています。こうした著名な心理学者たちの理論は、それぞれ別の事を述べているように聞こえますが、母親、重要な他者、および社会との「繋がり」について言及しているということが出来ます。従いまして、この「繋がり」あるいは「絆」と言うものを理解することは重要だと考えています。

① なぜ原子価論なのか

## 心理学理論における基本的な考え

- 「人」には、自己存在、存続、発達のために「重要他者」と安定した「繋がり」を築く欲求がある。
- このような「繋がり」を築くことができない場合は、人に様々な心理的混乱、障害、悩みが発生する。

↓ ↓ ↓

- 人間の「つながり」ほどのようなものか
- どのように形成されるのか
- どのような種類があるのか

↓ ↓ ↓

### 「原子価論」(HAFSI, 2016)

代表的な心理学理論から見えてくるのは、人には、自分が存在するため、発達するために、重要な他者との安定した繋がり、あるいは絆を築く欲求があるということと、こうした繋がりを築くことが出来ない場合には、人に様々な心理的混乱や障害、悩み、精神的な疲れやストレスが発生するのではないかということです。

そこで本日は、そもそも人間の繋がりとはどういうものなのか、どのように形成されるのか、どんな種類があるのかについて焦点を当てた「原子価論」を紹介いたします。この理論は、現在奈良大学で教鞭を執られている HAFSI 先生が体系化されたもので、私の指導教官でもあります。先生を中心とした研究チームが原子価論の立場から、不登校・摂食障害・ドメスティックバイオレンス・自殺・糖尿病など様々な社会的問題に関する調査研究を行っています。

① なぜ原子価論なのか

## 「原子」と「原子価」

- 基本的な考え

- ① 原子とは、アトム(atom)の訳語であり、物質を構成する最小の成分
- ② 原子と原子が結合することによって物質の最小構成単位である「分子」が生まれる
- ③ 原子と原子がつながることができるのは、原子が、あるいは「手」のような部分である「原子価」を持っているからである。

この理論の名前について、なぜ化学の用語がどう心理学とつながっているのかという疑問をお持ちだと思いますが、ご存じのように化学における原子と原子価の基本的な考え方は、このスライドの通りです。

中でも、③の部分の原子と原子が繋がることが出来るのは、手のような部分である原子価を持っていることにヒントをえて、人を1つの原子として捉え、原子価なるものによって人と繋がるのではないかと考えています。ただし、メタファーでありここで使用する原子価は、化学の原子および原子価とは、さまざまな使い方が異なります。

具体的には後でご説明いたしますが、その前に、本日までご参加いただいている皆さまの繋がりがどうなっているのかを知るための、簡単な検査をしたいと思います。

② 原子価査定テスト

## 原子価査定テスト

VALENCY ASSESSMENT TEST  
(VAT簡易版)

〈原子価査定テスト (VAT) とは、人と人との繋がりが方、及びその繋がりを可能にする個人的「要素」である「原子価」の類型と構造の査定を目的としたテストです (p29 参照)。25 項目の文章完成法から構成されており、採点には訓練を受けた心理士による判定が必要です。原子価論の一時的な理解促進のため、講義や研修などで短い時間で回答し自己判定できるなど利用しやすいよう改良したものが VAT 簡易版です。〉

## 原子価論（定義・種類）

### ●基本的考え

人は、「原子」と同様に「原子価」のような特性を  
もっており、それによって他者とつながる。

- ① 原子価とは、個人が他者と結合（つながる）ための一定の無意識的かつ不変的な人格特性である。
- ② 原子価には4つの種類(タイプ)があり、それぞれに基本的な機能がある。

- |               |              |
|---------------|--------------|
| 1. 依存原子価(D)   | 人との共感のための機能  |
| 2. 競争原子価(F)   | 自己防衛機能       |
| 3. つがい原子価(P)  | 異性を求める機能     |
| 4. 逃避の原子価(FL) | 対人距離を保つための機能 |

③原子価論とは

テストのフィードバックを兼ねながら、原子価論の具体的な内容について説明させていただきます。

基本的な考えとしては、人は化学における原子と同じように、原子価のような特性をもち、それによって繋がっていると考えています。人を一つの原子として捉えた場合、原子価とは、個人が他者と結合するための一定の無意識的、かつ不変的な人格特性となるものです。

そして、原子価は4でありそれぞれに特徴があります。その特徴とは、依存・競争・つがい・逃避と呼ばれており、依存は人との共感のための機能を、競争は自己防衛機能を、つがいは異性を求める機能、逃避は対人距離を保つための機能を持っています。

## 原子価論（構造・表現方法）

### ●健康者の原子価構造

1の「活動的(支配的)原子価」

3の「補助的原子価」

活動的原子価：人（対象）と繋がるために最も顕著に示す  
補助的原子価：活動的原子価によるつながりが不可能な場合、  
一時的に使用され過剰的機能を果たす

### ●原子価の表現方法には、

行動的表現 ・ 知性的表現 ・ 感情的表現



その構造は、健康的な人、すなわち正常で、安定した人間関係を築き、自分の社会的環境に適応出来る人の場合の原子価構造は、1つの活動的原子価(ACV)と3つの補助的原子価(AXV)によって構成されています。ACVとは、人との相互作用において、もっとも頻繁にかつ瞬間的に示される類型であり、一種の「心的顔」と呼ばれるものに相当しています。AXVとは、ACV以外の原子価であり、ACVで繋がれないときに一時的にAXVによる関係を築いて、様々な対人関係的な状況に適応していくことができるものです。

簡易テストの結果の中で、最も高い点数が、ACVとなり、その他がAXVとなります。協同という項目は共同作業の適性を図る項目で、グループでの協同作業に向いている人は、点数が高く、そうした作業に向いていない人は点数が低いことを表しています。

## 原子価論

依存原子価

相互の依存によるつながり

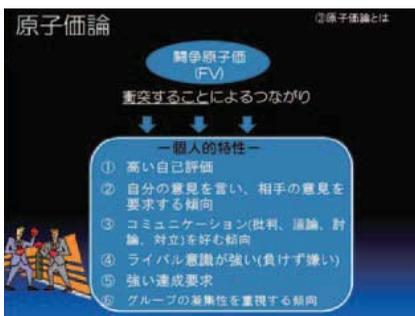
一人的人格特性一

- ① (様々な意味で)自己卑下
- ② 他者の高揚
- ③ 他者による評価の重視
- ④ 他者に対する高い信頼感
- ⑤ 強い共感(同情)
- ⑥ 上下関係を築く傾向



依存原子価の繋がりと人はとは助けたり、助け合ったりすることによって繋がろうとするものです。依存をACVとする人(DVP)は、1人でいることが耐えられないので、人の存在が必要不可欠に感じたり、そのように振る舞ったりして、1人では生きていけないというメッセージを相手に伝えようとしめます。

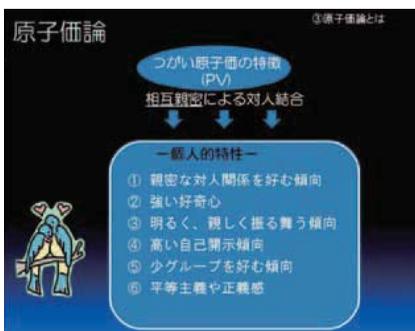
こうした関わり方には、個人的な要素として、低い自己評価、自己卑下といったことが関連していて、1人では生きていけない強くない、だから他者はすごいと理想化する傾向にあります。さらに、「投影同一化」という機能によって、自分の低い自己評価を相手へ投影し、きっと他の人も一人でできないだろう、助けが必要しているだろうと見なす傾向にあるのです。ですからDVPは、人の苦悩や不幸といった否定的な感情や出来事に対して、とても敏感で大きめに共感したり、同情する傾向が強いといえます。



闘争の原子価は、人と人は衝突したり、競争することによって繋がろうとする繋がりが方です。繋がりが方として、相反しているように見えますが、こうした攻撃的に接することが人と繋がっている実感として感じられるのです。

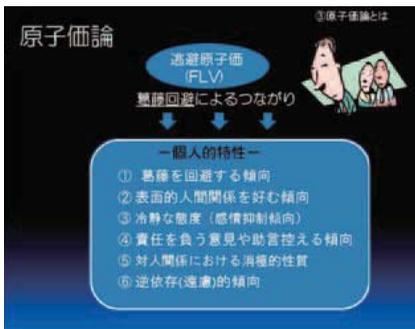
闘争を ACV に示す人 (FVP) の特徴は、積極的な自己主張や自己表現、批判、衝突が人と繋がるための唯一の手段だと信じていることです。

他にも、高い自己評価とコミュニケーションを好む傾向が高く DVP と同様に投影同一化によって FVP も自分がそうであるから、きっと相手も意見を持っていて当然と信じていて、自分の意見を相手に言う機会があれば、すかさずそれを伝えて、相手の反応を期待する場合があります。ですから、そういう議論をする機会を逃さないように常に構えているのです。



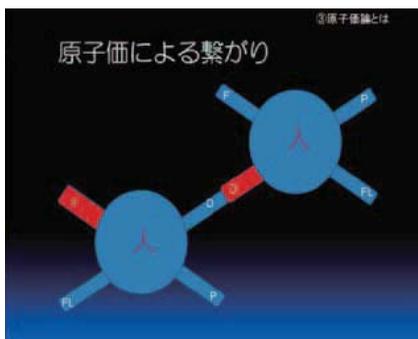
鳥のつがいの絵を載せていますが、オスとメスが一緒になり、深く繋がることによって、何かが産まれるということを示していますが、この鳥のつがいが示すように、人と人も親密に、相手と深く繋がり、強い好奇心をもち、互いが深く入り込み、お互いの内面的な世界を知り合うことによって繋がろうとする繋がりが方です。

つがいを ACV に示す人 (PVP) の特徴は、高い自己開示や対象を知りたい、知られたいという欲求、異性に対する性的、アピール、明るくて陽気な性格と関連しています。PV のアピールは、人によっては傲慢とか挑発と受け取られる場合もありますが、実際は、注目を浴びて相手に近づきたいという願望のために行っています。



逃避の原子価は、「闘争」と同様に、人との繋がりを避ける印象を与えますが、闘争原子価が、人と衝突することによって繋がろうとしますが、逃避は、衝突の結果として起こる葛藤を避けるために、距離をとって繋がろうとするのが特徴です。闘争を ACV に持つ人 (FLVP) は、人間関係のトラブルになるような葛藤を含む状況を好まないの、人とは表面的な関係を好んで、人と一定の距離をおかないといけなという信念を持っています。

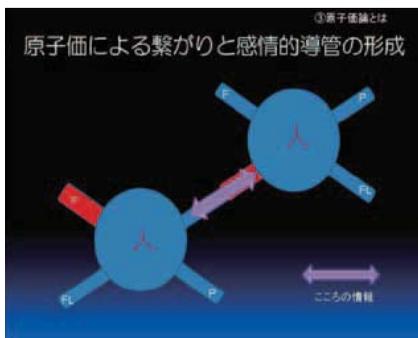
こうした人との感情的距離によって、一見、人に関心がなく個人的な考えもなく、遠慮がち、内向的な印象を与えます。他にも、無感情・冷静・表面的かつ感情的に乏しい印象を与えます。FLVP は、人を頼りにすることは、迷惑をかけることだと感じているし、頼ることは弱いことと思っています。



これまで4つの原子価の繋がり方と、それぞれをACVに持った時の個人特性を説明いたしました。

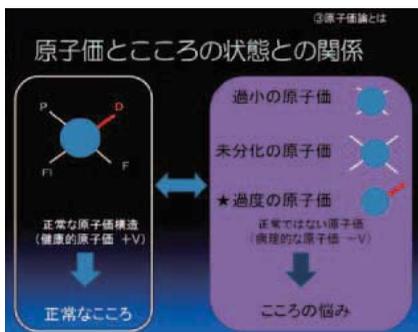
目に見えない繋がりではありますが、それを見るように表すならばこのようになります。スライドには、闘争をACVに持つ人が、依存をACVに示す相手と繋がるために、自分の補助的原子価である依存を使ってつながっているところです。

このように、正常な場合は、1つのACVと3つのAXVという構造によってあらゆる社会的・対人関係の状況に適応し、人との安定した繋がりを築くことによって、二人の心的な成長に通じていくことができると考えています。



さらに、原子価による繋がりをもち、一般的に言われる「以心伝心」といった言葉があるような、互いに心の情報を言語化することなくやりとりを可能にしているのは、「感情的導管」によるものです。

感情的導管とは、二人の心の情報を通すための管、あるいは道であり、それが存在することによって、さまざまな感情が流れ、行き来することができるものです。



原子価には説明したような正常な構造ばかりでなく、これが欠如している場合があり、その時には精神的な成長や安定にかかせない人とつながっていくための能力が見られなくなります。つまり、人との関係を破壊していく状態に相当するものです。

こちらは、病的な構造とよび、いくつかのパターンがあります。、どんな原子価も示すことができない、誰ともつながらない「過小の原子価」、4つの原子価は持っているけれど、その相手や状況にふさわしい原子価がわからずに、不適切な反応をする「未分化の原子価」、そして、1つの原子価だけしかもたず、相手のニーズを考慮せずそれだけを強烈に表現する「過度の原子価」です。

今日は、この3つめの「過度の原子価」に焦点を絞ってご紹介したいと思います。

マイナス依存原子価  
(-DV)

1. 無力感
2. 低い自尊心
3. 他者の理想化と貪欲的な期待と要求
4. 他者の不在に対する耐性の欠如
5. 他者との類似性の過度な重視

過度の原子価は、4つの原子価のうち、1つだけしか相手と繋がる手をもっておらず、誰でもどんな状況でもそれのみによって繋がるとうるので、人間関係においてさまざま支障が生じてきます。

病理的な依存構造の場合は、無力感、低い自尊心、他者の理想化とそれに対する貪欲的な期待や要求として表現されます。常にだれかと一緒にいたい、守られたいという要求がとても強く、そのため1人でいるということに耐えることができず、どんなときも他者を必要とします。

また、自分は人に見捨てられるのではないかと、拒絶されるのではないかとという恐怖を抱えていて、他者といつも同じでいることが重要だと考えています。

具体的な例としては、ドクターショッピング、ドメスティックバイオレンス、摂食障害等と深く関連していると考えられています。

マイナス競争の原子価  
(-FV)

1. 社会的環境に対する強烈な不信任感・敵意
2. 利己主義的・自己中心
3. 非現実的な自信・自己評価・万能性・全知性

病理的な競争構造を持つ人の場合、社会に対する強烈な不信任感と敵意をもって、世の中は弱肉強食の世界だから、強いものしか生き残れないと信じています。従って、自分が成功するため、勝つことが重要なので、年上であっても相手に対して尊敬や敬意を払うことなく、人は目的達成のための道具として考える傾向にあります。他にも、人に対する強烈な不信任感や敵意を持っているので、人に対する優しさや気配りといったものを重視しません。

むしろそうした感情は生きていくためにむしろじまなもものとしてみなすことがあります。また、非現実的な自信や自己評価、時には誇大妄想まで発展する万能性を表すことがあり、あらゆる意味で自分が一番すぐれていると思っています。

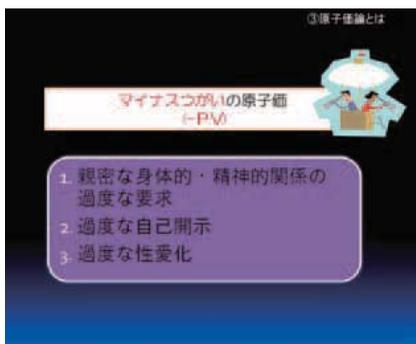
マイナス逃避の原子価  
(-FLV)

1. 無表情・疑い深さ・冷たさ・よそよそしさ
2. 心理的要塞
3. 過度の逆依存
4. 異常な内向性（幻想的対人関係）

病理的な逃避構造を持っている人の場合は、人との関係において、必要な感情を表すことなく、感情を抑制し、無表情で冷たくよそよそしい印象を人に与えます。人とは心理的要塞を作って、親密になることを避けようとするので、人と関わる仕事や社会的立場もさげようとして、この原子価をもつ人にとって、人に頼ることや自分を出すことはすなわち自分の弱さをみせることに繋がりますので、あらゆる場面で人に頼らないようにします。

そして、人との現実的ななかかわりより、幻想的なもの、パッチャルな世界のほうが心地いいと感じて、アニメの登場人物を本気で好きになったり、ネットの中や空想の世界で過ごすことを心地いい感じる傾向にあります。

引きこもりや不登校といった社会問題は、この原子価構造をもっている人と関係があると考えられています。



病理的なつがいの原子価は、親密な身体的かつ精神的関係を過度に要求する繋がり方を示します。

つまり、相手のすべてを知りたい、知り尽くしたいという過度な要求をもっているのが、自分が相手について知らないことがあるということに耐えられません。お互いがお互いのすべてを知っているという関係を求めていますので、自分も相手に過度な自己開示をしたり、場合によっては、覗いたり、ストーカーのような行為として表れる場合があります。

また、特に異性ととの繋がりにおいては、非常に性というのが重要な要因になっていて、男女というのは性がなければつながらないという幻想をもっている特徴があります。



理論の活用につきましては、人との繋がりという観点からの自己理解が進むのではないかと、そして同時に皆様の周りの方々、パートナーであったり、子供であったり、上司や同僚、部下、先生や指導する学生さん等の理解の助けになるものと考えております。相手の行動を理解できなくて、イライラすることはよく見られることですが、この原子価論の観点から理解すると、その行動や発言の意味と目的が分かるようになるかもしれません。

他にも、原子価構造を知ることによって、例えば職業選択にも役立つのではないかと考えています。

また、組織内の人事や上司として部下にどのような仕事を担当させるのが適材適所といったことにも貢献できうものと思っております。本日ご説明した原子価構造の理解が、自分だけでなく他者のメンタルヘルスの維持にも役立つものと信じております。

## 女性サポート相談室 メンタルヘルス研修

～目に見えない 人と人との繋がり方を知る 原子価論からみる人間関係～

### アンケート集計結果

(参加者 27 名中 20 名から回答)

実施日 2012年8月9日(木) 10:00-12:00

1 本日の研修について  
お聞かせ下さい。

参加して良かった 19名  
どちらとも言えない 1名  
参加しない方が良かった 0名

2 今回の回答のなかで、  
印象に残った話や内容  
をご記入ください。

- ・今までと違った角度から、繋がり方を捉えることが出来るようになった。
- ・査定テストで予想外の結果がでたが内容を読んでいくとなるほどと思った。
- ・マイナス原子価。
- ・「知識がストレスを軽減する」ことが出来ると感じた。2名
- ・原子価査定テストで自分や家族を知ることができた。原子価のプラスの面も知りたかった。原子価別に繋がるためのつきあい方をしりたい。また参加したい研修でした。
- ・最後の質疑応答がおもしろかった。
- ・簡易版ではありますが、テストの結果をみて自分で納得の結果でした。
- ・原子価理論を使って、人との接し方を考えること。
- ・自分の原子価の特性。
- ・おもしろかった。次回も出席したいと思います。
- ・就職についての活用提案に大変興味を持ちました。普段の業務に生かして行きたい。
- ・テストで自分の心理が具体的にわかった。人間関係が原子と関係があることがおもしろかったです。

3 ご参加いただいたあなたは、  
次のどれに当たりますか。

教員 4名  
職員 12名  
学生 1名  
その他 3名

4 このイベントを  
どこでお知りになりましたか？

掲示ポスター 4名  
ホームページ 0名  
メールでの案内 10名  
知人より案内 6名

5 このイベントを  
どこでお知りになりましたか？

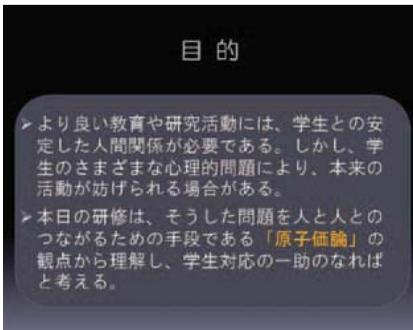
・相談の現場での活用例を聞いてみたかった。

## 研修報告 2



本日は、環境理工学部のハラスメント研修という枠組みではありますが、私のこれまでの臨床経験を踏まえて、学生の理解に繋がるような話もしてほしいというご依頼でしたので、私の専門分野である臨床心理学的な視点からお話させていただきたいと思っております。

タイトルは、より良い教育環境に向けて、原子価論から見た学生行動の理解ということで、臨床心理学の中でも、とりわけ精神分析学の中に「原子価論」という1つの理論があるわけですが、本日はこの観点からみた学生さんの行動理解について説明させていただきます。



今日の研修の目的ですが、教員がより良い教育や研究活動を行うためには、設備や研究費などのハード面も重要ですが、ソフト面である学生さんとの安定した人間関係が必要だと考えます。

しかし、昨今学生さんのさまざまな心理的問題によって、教育や研究活動が妨げられたる場合が増えてきているようです。この研修では、こうした学生さんの心理的問題を、人と人が繋がるための手段である「原子価論」の観点から理解し、先生方や学生さんに携わっておられる職員の方々の対応の助けになればと考えております。



まず、簡単に原子価論とは何かについて説明いたします。

この理論では基本的に、人は自分が存在するためや存続するため、発達するために母親から始まる重要な他者と安定した繋がりを築く欲求を持っていると考えています。そして、他者と安定した繋がりが、精神を安定させ、健康的な心の成長へと結びつく一方で、安定した繋がりがもてないときには、人に様々な心理的混乱、障害、悩みも発生するという考え方です。

心理学においてずっとブラックボックスになっていた、そもそも人間の繋がりはどういうものなのか、どのように形成されるのか、どんな種類があるのかについて光を当てたのが「原子価論」であり、今日はその一部分を切り取って紹介いたします。

## 原子価論（定義）

- 原子価とは、個人が他者と結合（つながる）ための一定の無意識的かつ不変的な人格特性である。
- 原子価は4であり、それぞれに特徴がある。

- 依存原子価(Dependency) 人との共感のための機能
- 闘争原子価(Fight) 自己防衛機能
- つがい原子価(Pairing) 異性を求める機能
- 逃避原子価(Flight) 対人距離を保つための機能

化学では、原子と原子が繋がることが出来るのは、手のような部分である原子価を持っていると考えられています、それにヒントをえて、人も1つの原子として捉え、原子価なるものによって人と繋がるのではないかと考えられました。

勿論、メタファーですので、化学の原子および原子価とは、さまざまな使い方が異なります。人も一つの原子として捉えた場合の原子価とは、個人が他者と結合するための一定の無意識的、かつ不変的な人格特性となるものです。

そして、原子価は4でありそれぞれに特徴があります。その特徴とは、依存・闘争・つがい・逃避と呼ばれており、依存は人との共感のための機能を、闘争は自己防衛機能を、つがいは異性を求める機能、逃避は対人距離を保つための機能を持っています。

## 原子価論（構造）

### ● 健康者の原子価構造

- 1の「活動的(支配的)原子価」
- 3の「補助的原子価」

活動的原子価：人（対象）と繋がるために最も頻繁に示す

補助的原子価：活動的原子価によるつながりが不可能な場合、一時的に使用され適応的機能を果たす

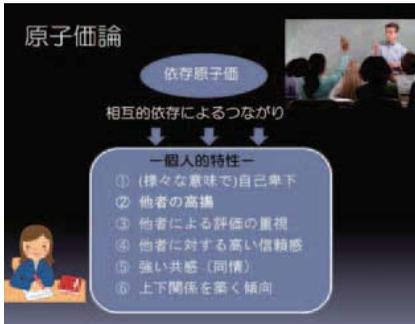


健康的な人、すなわち正常で、安定した人間関係を築き、自分の社会的環境に適応出来る人の場合の原子価構造は、1つの活動的原子価（ACV）と3つの補助的原子価（AXV）によって構成されています。

ACVとは、人との相互作用において、もっとも頻繁にかつ瞬間的に示される類型であり、一種の「心的顔」と呼ばれるものに相当しています。

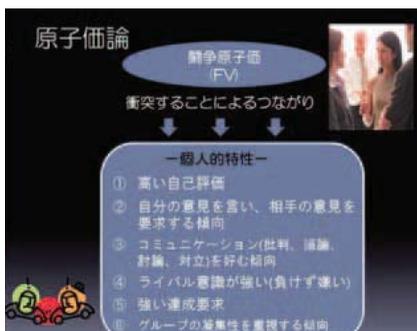
AXVとは、ACV以外の原子価であり、ACVで繋がれないときに一時的にAXVによる関係を築いて、様々な対人関係的な状況に適応していくことができるものです。簡易テストの結果の中で、最も高い点数が、ACVとなり、その他がAXVとなります。協同という項目、共同作業の適性を図る項目で、グループでの協同作業に向いている人は、点数が高く、そうした作業に向いていない人は点数が低いことを表しています。

## 原子価論



依存原子価による繋がりとは、助けたり助け合ったりすることによって繋がろうとするものです（p9. 依存原子価 参照）。意識的・無意識的に縦的で上下の人間関係を好み、常に相手を高く評価し、あらゆる人と頼ったり頼られたりするような対人関係を好みます。

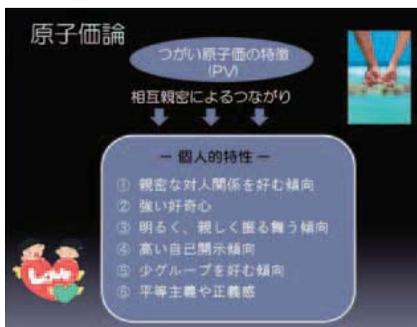
教育という場面を考えてみますと、この依存による繋がりには教育活動を行う上で、もっとも必要な繋がりと言えます。それは、学生が先生から何かを学ぶためには縦的な関係や先生への信頼、理想化などが必要であるためです。勿論教員の側もこうした依存心を受け容れる必要があります。学生と教員がお互いにこうした繋がりを持つことが出来て初めて、教育を行うことが可能となるからです。従いまして、「学び・学ばれる」ために基本となる原子価だといえるでしょう。



闘争の原子価は、人とは衝突したり、競争することによって繋がろうとする繋がり方です (p10. 闘争原子価 参照)。

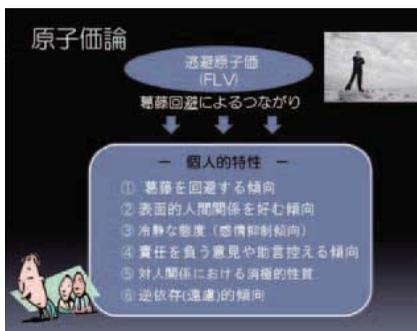
闘争による繋がりも依存と同様に、教育や研究活動、仕事においてとても重要です。研究活動には、高い達成目標とそれに向けて切磋琢磨する競争心が必要でしょう。

また、あらゆる研究活動には、それに関わるスタッフがチームとしてまとまる必要があるため、高い凝集性も必要でしょう。その目標達成のために、教員が学生の成長のために、注意したり、叱ったり、厳しくすることは必要です。こうした繋がりを通して、学生も教員も刺激を受け、自信が増すなど多くのことを学ぶことができるわけですが、残念なことに最近ではこうした繋がりに耐えられない学生さんが増えているように感じます。



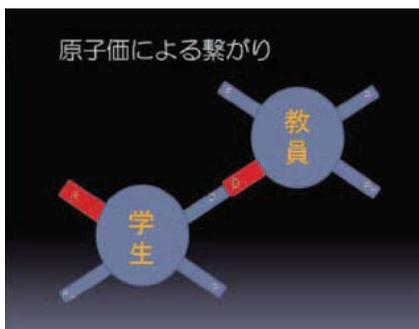
つがいの原子価は、相手と深く繋がり、強い好奇心をもち、互いが深く入り込み、お互いの内的な世界を知り合うことによって繋がろうとする繋がり方です (p10. つがい原子価 参照)。教育現場でこれを考えますと、教員と生徒が個人的にも親しくなるということ、適切ではないように聞こえますが、性的な関係を結ぶということではなく、ともに学び研究だけの繋がりではなく、例えば、先生もご自分の個人的な話、学生時代のことや、家族のことも話題にしたり、学生と恋愛の話ができるようになることが、研究だけでなくプライベートな話でもできるようになることです。

まさにゼミ旅行や飲み会は、このつがいの繋がりを促進するための機能であって、研究活動における潤滑油のような役割もっていると言えます。



逃避の原子価は、人とは距離をとって繋がろうとするのが特徴です (p10. 逃避原子価参照)。人に頼ったり助けを求めるのが苦手のできるだけそうした状況を選ばようとしています。人を頼りにすることは、迷惑をかけることだと感じているし、頼ることは弱いことと思っています。ですから、自立、自給自足、何でも1人ではがる傾向にあります。

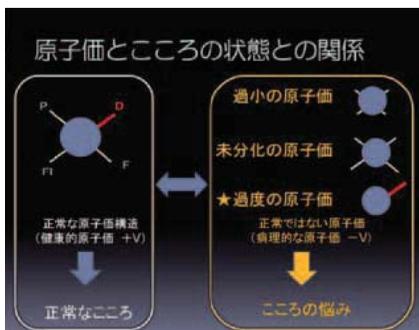
教育場面においては、教員と学生との距離感を保つために必要な繋がりと云えます。学生も、先生との一定の距離が必要ですし、時には人に頼らず自分だけで考えて決めていくことも必要です。研究を続けて行く上で、自立性や独立性、孤独に耐える必要がありますが、そういうことと関係する繋がりと云えます。



人を原子と見立てたときに、人と人がどのように繋がっているかをモデルで表すと、スライドのようになります。

このモデルでは、教員の ACV が依存であり、学生の ACV は闘争ですが、教員と繋がるために、学生が自分の補助的な原子価である AXV の依存を使って繋がっていることを表しています。

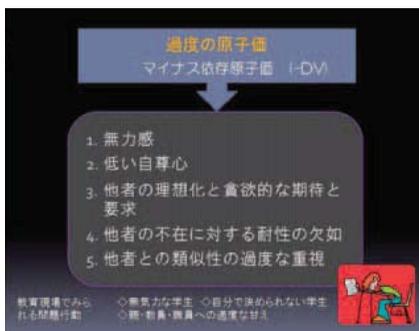
もちろん、これは反対の場合、つまり教員が自分の補助的な原子価を使って学生と繋がっている場合もあります。そして、この原子価を状況に応じて変えていくことが必要でしょう。



しかし、残念なことに、こうした構造ばかりでなく、これが欠如している場合があり、その時には精神的な成長や安定にかけられない人とつながっていくための能力が見られなくなります。

つまり、人と人の関係を破壊していく状態に相当するものです。こちらは、病理的構造とよび、いくつかのパターンがあります。どんな原子価も示すことができない、誰ともつながらない「過小の原子価」、4つの原子価は持っているけれど、その相手や状況にふさわしい原子価がわからずに、不適切な反応をする「未分化の原子価」、そして1つの原子価だけしかもたず、相手のニーズを考慮せずそれだけを強烈に表現する「過度の原子価」です。

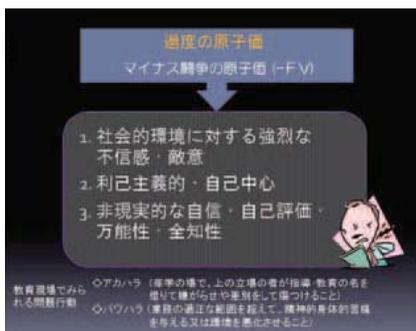
今日は、この3つめの「過度の原子価」に焦点を絞ってご紹介したいと思います。



(p12. マイナス依存原子価 参照)

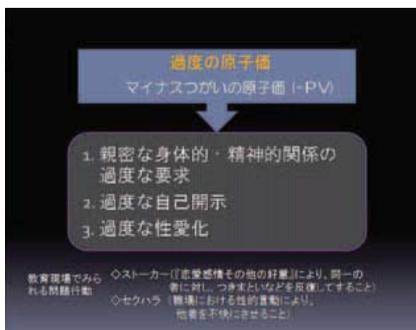
— DV 構造を持つ学生さんの行動としては、例えば、学力があるにも関わらず自分1人では何もできないと信じ込み、先生や仲間が指示してくれるまでただじっと待っていたり、自分の意思や意見を言えないこととして表れる場合があります。他にも、教員が学生に何を考えているか尋ねると、「自分の気持ちさえわからない」とか、「自分の気持ちを誰かに引き出してくれないとわからない」などと応える場合が相当します。

また、ボランティアばかりして、学業に影響を及ぼしているような学生さんや、レポートの期限をまもらなくてもきつと許してくれるだろうと思っている学生さんもその一例と言えるでしょう。教員としてこうした学生さんとは、結果的にどう扱っていいかわからないので、教育的関係が結ばず、二人の関係が破壊されていくことになります。



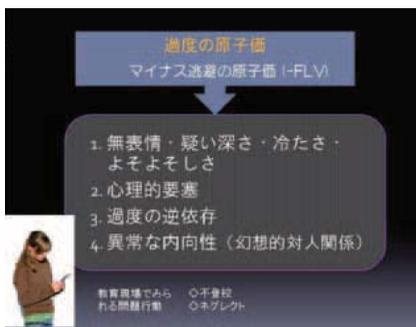
(p12. マイナス闘争原子価 参照)

こうした病理的な闘争原子価をもつ学生さんの例としては、友達や先生、あるいは大学を馬鹿にして、挑発的な態度をとる例や、自分はこんな大学にくるんじゃないかった、もっと自分は実力がある、などと万能感を語るものが相当するでしょう。反対に、教職員がもしこうした構造をもっている場合には、一般的に言われるアカデミックハラスメントやパワーハラスメントに相当する行動として現れるのではないかと思います。こうしたハラスメントは、自分の意見を相手に無理やり受け入れさせて、相手を支配し抑え込むというサディズム的な繋がりで、まさにマイナス闘争原子価の特徴といえるでしょう。



(p13. マイナスつがい原子価 参照)

こうした構造をもつ学生の例としては、教育的関係のためには、まず教員との縦の関係が必要にも関わらずそれが理解できず、教員と同じ立場と考えていて、誰とでも横的な関係を作りたがる場合です。「先生とメル友になりたい」と要求したり、ずけずけと先生の個人的情報を聞く行動が相当するでしょう。またストーカーの行為もこの -PV と関係していると考えられます。ストーカーはこの原子価の特徴である傲慢さや相手を知り尽くしたいという要求によって、相手のことを無視して一方的に好意を押しつけている行為です。勝手に相手のプロフィールを調べたり、家を見はったり、待ち伏せしたりする行動は、まさにこうした原子価による影響と考えます。他にも、セクシャルハラスメントも、相手との繋がりを無視して、一方的に自分の性的衝動を発言や行動によって満たそうとする行為といえますので、この原子価の影響と考えられるわけです。



(p12. マイナス逃避原子価 参照)

人との現実的ななかかわりより、幻想的なもの、バーチャルな世界のほうが心地いいと感じて、アニメの登場人物を本気で好きになったり、ネットの中や空想の世界で過ごすことを心地いい感じる傾向にあります。

最近、10代や20代の若者の中で、「妄想彼氏」「妄想彼女」というバーチャルな世界で恋人をつくるのが流行っているようですが、この -FLV の現れとしてとらえることができるでしょう。

また、こうした病理的なマイナス逃避原子価は、不登校や引きこもりとも関連していますし、親が子どもの世話をしない、いわゆるネグレクトとも関連していると考えられています。

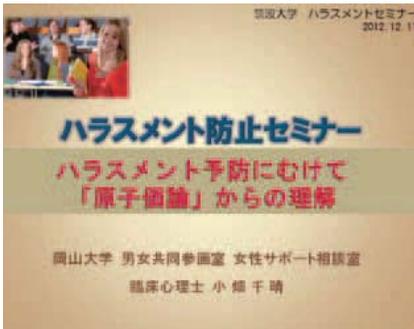
## 原子価理論活用にあたって

- 指導・助言の一指針
- 問題行動によって引き起こされる否定的感情や混乱の軽減
- 教育的関係を築くための一助



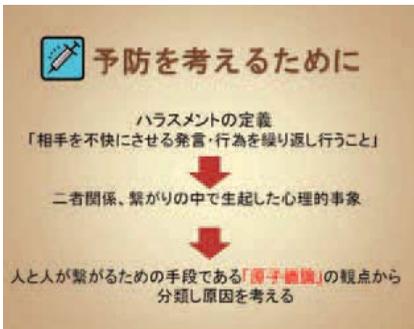
病理的な原子価構造をもっている学生さんの場合ですが、こうした学生さんは基本的に先生との教育的な関係が結べないので、先生方の仕事の範囲を超えた関わりが必要となります。そうした時に私のような臨床心理士や精神科医といった専門家が担当することになります。マイナス原子価は、二人の関係を破壊していくのですが、病理的な方法でしか人とつなげられない、本人の繋がりが方でもあるのです。普通の人からすれば、こうした行動は理解できないので、混乱させられてしまうのですが、マイナス原子価という観点から理解することによって、先生方にとって感じる必要がない否定的感情や混乱を軽減することができるとも考えています。学生さんを教育し、研究活動を進めていくためには、何よりも安定した教育的関係が必要不可欠と考えます。今日ご紹介いたしました原子価論の観点から学生さんとのかわりを考えることによって、より安定した教育的関係を築く手助けになりうる理論ではないかと考えています。

## 研修報告 3



私が所属する男女共同参画室の女性サポート相談室では、ハラスメントを専門に扱っているわけではないのですが、今日は私の専門分野である臨床心理学という立場、とりわけ「原子価論」という立場から、ハラスメントの予防についてお話をさせていただきたいと思います。

ただこの場合の予防というと、ハラスメントを受けないようにするものと、ハラスメントをしないためのものが考えられますが、私の立場からは後者のほうを取り扱いたいと思っています。



ハラスメントとは、意識的、無意識的に「相手を不快にさせる発言・行為を繰り返し行うこと」です。この定義からわかることは、一時的な不快の行為であれば、ハラスメントではないということです。更に、気に入らない相手であれば、関係を持たないように離れたりすれば良いのに、しつこく同じ行為繰り返しているということです。こうしたことから、ハラスメントをする側、一般的にいう加害者にとってその相手がある意味大事であるということでもあります。ただ、その繋がりは 嫌な気持ち・健康的ではない気持ちで繋がっているということです。以上からハラスメントを、このような健康的でないにせよ、二人の繋がりのなかで起こる心理的現象として捉えられるわけですが、今日は予防を考えるために、人と人が繋がるための手段である「原子価論」という観点から、まずそれらを分類し原因について考えようと思います。



基本的な考えとして、人は、自分が存在するため、存続するため、発達するために母親から始まる重要他者と安定した繋がりを気づく欲求を持っていると考えています。そして、他者と安定した繋がりが、安定し、健康的な心の成長へと結びつく一方で、人に様々な心理的混乱、障害、悩みも発生するという考え方です。

そこで、今日はそもそも人間の繋がりはどういうものなのか、どのように形成されるのか、どんな種類があるのかについて話を当てる「原子価論」を紹介いたします。

## 原子価論（定義）

- 原子価とは、個人が他者と結合(つながる)ための一定の無意識的かつ不変的な人格特性である。
- 原子価は4であり、それぞれに特徴がある。

- ◆ **依存** 原子価(Dependency) 人との共感のための機能
- ◆ **競争** 原子価(Fight) 自己防衛機能
- ◆ **対峙** 原子価(Fairing) 異性を求める機能
- ◆ **逃避** 原子価(Fight) 対人距離を保つための機能

化学では、原子と原子が繋がる事が出来るのは、手のような部分である原子価を持っていると考えられていますが、それにヒントをえて、人も1つの原子として捉え、原子価なるものによって人と繋がるのではないかと考えられました。勿論、メタファーですので、化学の原子および原子価とは、さまざまな使い方が異なります。人も一つの原子として捉えた場合の原子価とは、個人が他者と結合するための一定の無意識的、かつ不変的な人格特性となるものです。

そして、原子価は4でありそれぞれに特徴があります。その特徴とは、依存・競争・つがい・逃避と呼ばれており、依存は人との共感のための機能を、競争は自己防衛機能を、つがいは異性を求める機能、逃避は対人距離を保つための機能を持っています。

## 原子価論（構造）

- 健康者の原子価構造  
1の「活動的(支配的)原子価」  
3の「補助的原子価」

活動的原子価: 人(対象)と繋がるために最も頻繁に示す

補助的原子価: 活動的原子価によるつながりが不可能な場合、一時的に使用され適応的機能を果たす



その構造は、健康的な人、すなわち正常で、安定した人間関係を築き、自分の社会的環境に適応出来る人の場合の原子価構造は、1つの活動的原子価 (ACV) と3つの補助的原子価 (AVX) によって構成されています。

ACVとは、人との相互作用において、もっとも頻繁にかつ瞬間的に示される類型であり、一種の「心的顔」と呼ばれるものに相当しています。

AVXとは、ACV以外の原子価であり、ACVで繋がれないときに一時的にAVXによる関係を築いて、様々な対人関係的な状況に適応していくことができるものです。

## 原子価論

競争原子価  
(FV)

衝突することによるつながり

一人的人格性

- ① 高い自己評価
- ② 自分の意見を言い、相手の意見を要求する傾向
- ③ コミュニケーション(批判、議論、討論、対立)を好む傾向
- ④ ライバル意識が強く負けず嫌いな
- ⑤ 強い達成要求
- ⑥ グループの凝集性を重視する傾向



競争の原子価は、人とは衝突したり、競争することによって繋がろうとする繋がり方です。繋がり方として、相反しているように見えますが、こうした攻撃的に接することが人と繋がっている実感として感じられるのです。

競争をACVに示す人の特徴は、積極的な自己主張や自己表現、批判、衝突が人と繋がるための唯一の手段だと信じていることです。他にも、高い自己評価とコミュニケーションを好む傾向が高くDVPと同様に投影同一化によってFVPも自分がそうであるから、きっと相手も意見を持っていて当然と信じていて、自分の意見を相手に言う機会があれば、すかさずそれを伝えて、相手の反応を期待する場合があります。従って、そういう議論をする機会を逃さないように常に構えているのです。



鳥のつがいの絵を載せていますが、オスとメスが一緒になり、深く繋がることによって、何かが産まれるということを示していますが、この鳥のつがいが示すように、人々も親密に、相手と深く繋がり、強い好奇心をもち、互いが深く入り込み、お互いの内的な世界を知り合うことによって繋がろうとする繋がりが方です。つがいを ACV に示す人 (PVP) の特徴は、高い自己開示や対象を知りたい、知られたいという欲求、異性に対する性的、アピール、明るくて陽気な性格と関連しています。PVP のアピールは、人によっては傲慢とか 挑発と受け取られる場合もありますが、実際は、注目を浴びて相手に近づきたいという願望のために行っています。



依存原子価の繋がりとはいけたり、助け合ったりすることによって繋がろうとするものです。依存を ACV とする人 (DVP) は、1人であることが耐えられないので、人の存在が必要不可欠に感じたり、そのように振る舞ったりして、1人では生きていけないというメッセージを相手に伝えようとする。

こうした関わり方には、個人的な要素として、低い自己評価、自己卑下といったことが関連していて、1人では生きていけない、強くない、だから他者はすごいと理想化する傾向にあります。

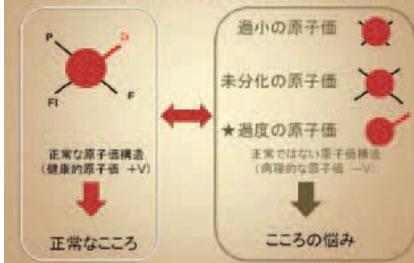
さらに、「投影同一化」という機能によって、自分の低い自己評価を相手へ投影し、きっと他の人も一人ではできないだろう、助けが必要しているだろうと見なす傾向にあるのです。ですから DVP は、人の苦悩や不幸といった否定的な感情や出来事に対して、とても敏感で大きさに共感したり、同情する傾向が強いです。



逃避の原子価は、「闘争」と同様に、人との繋がりを避ける印象を与えますが、闘争原子価が、人と衝突することによって繋がろうとしますが、逃避は、衝突の結果として起こる葛藤を避けるために、距離をとって繋がろうとするのが特徴です。闘争を ACV に持つ人 (FLVP) は、人間関係のトラブルになるような葛藤を含む状況を好まないで、人とは表面的な関係を好んで、人と一定の距離をおかないといけないという信念を持っています。

こうした人との感情的距離によって、一見、人に関心がなく個人的な考えもなく、遠慮がち、内向的な印象を与えます。他にも、無感情・冷静・表面的かつ感情的に乏しい印象を与えます。FLVP は、人を頼りにすることは、迷惑をかけることだと感じているし、頼ることは弱いことと思っています。

## 原子価とこころの状態との関係



しかし、残念なことに、こうした構造ばかりでなく、これが欠如している場合があり、その時には精神的な成長や安定にかかせない人とつながっていくための能力が見られなくなります。つまり、人との関係を破壊していく状態に相当するものです。

こちらは、病理的構造とよび、いくつかのパターンがあります。どんな原子価も示すことができない、誰もつながらない「過小の原子価」、4つの原子価は持っているけれど、その相手や状況にふさわしい原子価がわからずに、不適切な反応をする「未分化の原子価」、そして、1つの原子価だけしかもたず、相手のニーズを考慮せずそれだけを強烈に表現する「過度の原子価」です。

今日は、この3つめの「過度の原子価」に焦点を絞ってご紹介したいと思います。

### 過度の原子価

マイナス闘争の原子価 (-FV)

- 1 社会的環境に対する強烈な不信任・敵意
- 2 利己主義的・自己中心
- 3 非現実的な自信・自己評価・万能性・全知性



◇パワハラ (意識の適正な範囲を超えて、精神的身体的苦痛を与える又は環境を悪化させること)  
◇アカハラ (学卒の場で、上の立場の者が指導・教育の名を借りて嫌がらせや差別をして傷つけること)

(p12. マイナス闘争原子価 参照)

健康的な闘争原子価の場合でも、相手を批判したりすることで繋がろうとしています。こちらの病理的な闘争原子価になるとその批判は、相手から学ぶことではなく、ただ自分の意見をむやみやたらに押し付けることが目的になっています。なので、この場合も勿論二人の関係を破壊していくこととなります。

-FVの特性は、常に相手の上立って相手を支配し、自分の意見を相手に受け容れさせて抑えこもうとするサディズム的な繋がりがりですので、アカハラやパワハラにみられる関係と一致します。

従って、-FVの構造をもつ人が、パワハラやアカハラを引き起こす可能性が高いのではないかと考えられます。

### 過度の原子価

マイナスつがい原子価 (-PV)

- 1 親密な身体的・精神的関係の過度な要求
- 2 過度な自己開示
- 3 過度な性愛化



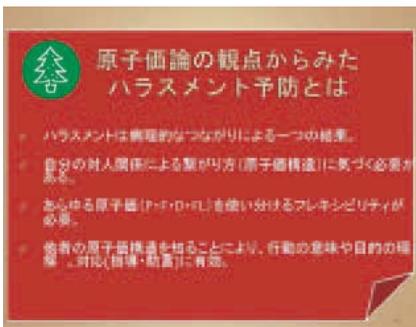
◇セクハラ ◇ストーーカー  
◇演技性人格障害 ◇パラフィリア(覗視・露出症)

(p13. マイナスつがい原子価 参照)

-PVは、親密な身体的かつ精神的関係を過度に要求する繋がりを示します。つまり、相手を無視して、一方的に相手のすべてを知りたいという過度な要求もっています。

こうした構造をもつ人が引き起こす可能性のある問題として、相手の意思に反して不快な状態に追いこむ性的な言動であるセクシャルハラスメントが考えられます。つまり、セクハラとは、相手を無視して一方的に自分の性的衝動を発言や行動を満たそうとしている1つの病理的な繋がりがりです。

相手にとって不快で迷惑なものですが、一応これも本人にとっては相手と繋がるための手段なのです。



原子価論の観点からハラスメントの予防を考えてみますと、ハラスメントは、人との病理的な繋がりによる1つの結果であるということが言えるでしょう。

従って、自分がそういう問題を引き起こさないために、まず自分の対人関係による繋がり方、ここでいう原子価構造に気づく必要があります。

それを知るためのテスト (VAT) がありますので、自分の原子価構造を知り、自分の繋がり方を意識することが予防の第一歩ではないかと思います。マイナスの原子価構造の場合は、対人関係においてさまざまな問題を引き起こしている可能性が高いですので、不健康な構造を健康なものへ変えていく作業をしていくことになります。

## 原子価論 Q & A

**Q 1** 活動原子価というのは、年齢や環境によって変化するものですか？それとも本質的には変わらないものですか？

**A 1** 年齢や環境によって一度習得した活動的原子価が変化することはありません。変わるのは補助的原子価です。ここで言う変わるという意味は、強くなる、新しく発揮できるようになるという意味です。

**Q 2** 原子価が少ないとか多いとかそういうことなのでしょうか？

**A 2** 多い少ないではなく、強弱で原子価は表されます。原子価を表現する方法が強いか、弱いかということです。

**Q 3** 記述式の正式版であればそれが可能ということでしたが、もともと問題を抱えて相談に来た人が相手であると、マイナスであろうという先入観に基づいて判断されてしまう恐れがあるように思うのですが？

**A 3** 原子価論においてテストは一つの段階であり、その結果は臨床の中で検証する必要があります。臨床の中でクライアントがマイナスに見えたのなら、それは臨床的事実として取り扱い、検証しなくてはなりません。

**Q 4** 「マイナスの原子価」を持つことが判明した時点で、どういふ改善が提言できるのでしょうか。「個人が他者と結合（繋がる）ための一定の無意識的かつ普遍的な人格特性である」と定義されている以上、そう簡単に原子価を変えるわけにはいかない。結局、具体的な行動場面で改善を図る必要が出てくるように思うが、それであるなら、行動療法的に十分に対応できるはずでは？

**A 4** 変わるのは原子価の構造であって、本人の持つ活動的原子価そのものではありません。今まで表れなかった補助的原子価が強く表現されるようになり、正常に補助的な働きをするようになります。原子価構造は行動のレベルではなく、無意識的な要素のため、行動療法の対象にはなりません。問題行動があるわけでも、行動的スキルが足りないわけでもないためです。

**Q 5** 類型論にありがちな「中間型が無視されやすく、性格を固定的に考えやすい」という問題があるのでは？あまりにも固定的に「仕事内容・就職活動等への活用」をはかると、その人の可能性の芽を奪う恐れもあるのではないのでしょうか？

**A 5** 補助的原子価という概念があります。人は、活動的原子価だけを発揮するのではなく、補助的原子価も使って対人関係を結んでいきます。なので、そのような問題は生じません。

**Q 6** これまでの理論と原子価理論の違いはどこにあるのか？何が新らしさなののでしょうか？

**A 6** 原子価論は、関係の性質そのもの（良い・悪い関係、親子関係等）ではなく、その関係を持っている二人をつなぐ手段である原子価に焦点をあてています。

Q 7 逃避原子価を活動的原子価にもっている人とはどうつきあえばいいのか？

A 7 相手が必要とする、ほどよい距離を保つようにするのがよいでしょう。

Q 8 原子価理論は状況把握の理論ではないかと思うのですが、変化がなぜおこるのですか？

A 8 何の状況でしょうか？ 二人の間を指す意味での状況、あるいは環境的な要因という意味での状況でしょうか。後者の意味では、原子価は状況把握の論ではありません。前者の場合、つながれない時には、別の繋がり方を学ばねばなりません。そうして補助的原子価が変化していきます。

Q 9 なぜマイナス原子価になるのですか？

A 9 これについては膨大な説明をしなくてはなりませんので、回答は省かせていただきます。簡潔に述べるならば、生来的な要因と、初めに学んだ繋がり方に問題があったからです。

Q 10 マイナス原子価をプラスに変えることはできるのですか？

A 10 可能です。そのためには、心理療法を行わなければなりません。どのような療法を行うかは、画一的なものではないので、ここでは述べられません。

Q 11 教員が学生と安定した繋がりを持つためにはどうしたらいいのですか？

A 11 教員と学生が安定した原子価構造を持つ必要があります。両者が安定した原子価構造を持っているならば、自然と安定した繋がり築かれるでしょう。

Q 12 教員の立場として学生がマイナスの原子価だとわかったらどう対処すればいいのか？

A 12 教員は学生と教育的関係を持っているので、学生とは治療的關係を持つ必要はありません。そのまま教育的關係を保つようし、治療は専門家へと任せてください。

# 原子価論に関する参考文献

- Hafsi MED (2012) : リーダー像と対人間の無意識的「絆」 - 原子価論に基づくリーダーシップ論 - .  
奈良大学大学院研究年報 (17) , 1- 15.
- Hafsi MED (2010) : マイナス原子価への対応方法 - 「原子価心理療法」への招待 - .  
奈良大学紀要 (38) , 137- 155.
- Hafsi MED (2010) : 無連結を査定する可能性 - 原子価査定テスト (VAT) から見たマイナス原子価 - .  
奈良大学大学院研究年報 (15) , 1-8.
- Hafsi MED (2010) : 「絆」の精神分析 ビオンの原子価の概念から「原子価論」への旅路 .  
ナカニシヤ出版 .
- Hafsi MED (2010) : 目に見えない人と人との繋がり - 原子価査定テスト (VAT) の手引き - .  
ナカニシヤ出版
- 岩崎和美 (2010) : 対人信頼感におけるパーソナリティの影響について - 「原子価論」に基づく実証的研究 - .  
奈良大学大学院研究年報 (15) , 57-68.
- 小原優 (2011) : なぜ人は自殺するのか - 自殺原因帰属における原子価の影響について - .  
奈良大学大学院研究年報 (16) , 85-103.
- 小畑千晴 (2011) : ドメスティックバイオレンスと夫婦の無意識的絆 - 女性相談所で一時保護された女性に関する原子価論からの一考察 - .  
Psychophilia Journal (4) , 19-26.
- 小畑千晴 (2008) : 夫婦の連結からみたDVに関する一原因論 - 夫婦の原子価論に基づく実証的研究 - .  
奈良大学大学院研究年報 (13) , 107-120.
- 片岡瑞恵 (2011) : 原子価論から見たパーソナリティと甘えの欲求不満への反応についての研究 .  
奈良大学大学院研究年報 (16) , 71-84.
- 黒崎優美 (2012) : 学校不適応研究における動向 - 「原子価論」からの再考 - .  
神戸松蔭女子学院大学研究紀要 . 人間科学部編 1, 29-43.
- 黒崎優美 (2005) : 家族グループからみた不登校 - Bion 的頂点からみた理論的ない考察 - .  
奈良大学大学院研究年報 (10) , 5-24.
- 笹内圭子 (2010) : 抑うつ傾向と原子価との関係に関する実証的研究 - マイナス依存の原子価の影響について -  
奈良大学大学院研究年報 (15) , 9-22.
- 笹内美里 (2008) : 成人のアタッチメント・スタイルを測定する尺度の開発過程とその信頼性に関する実証的研究 .  
奈良大学大学院研究年報 (13) , 121-130.
- 笹内美里 (2005) : 親の相互独立性 - 協調性と子育てと親の関わり - 子育てにおけるプロセスモデル - .  
奈良大学大学院研究年報 (10) , 25-52.
- 平尾浩子 (2008) : 川村による学級状態の類型について - Bion の集団理論に基づく一考察 - .  
奈良大学大学院研究年報 (13) , 97-106.
- 二村元康 (2012) : もう一つの観点からみた発達障害の査定について - 原子価査定テスト (Valency Assessment Test) を用いた研究 - .  
奈良大学大学院研究年報 (17) , 35-51.
- 二村元康 (2011) : 人はなぜ怒るのか? - 原子価を用いた怒りとの関係 - .  
奈良大学大学院研究年報 (16) , 262-270.
- 船越弘子 (2006) : あなたはどのような友人と付き合っているか - 友人選択における原子価の影響について - .  
奈良大学大学院研究年報 (11) , 45-54.
- 船越弘子 (2005) : 摂食障害の患者が語る家族ダイナミクス - 文献レビューに基づく一考察 - .  
奈良大学大学院研究年報 (10) , 77-89.
- 別所崇 (2008) : 自分と他者との連結からみた心理的距離 - Bion の言う原子価による影響について - .  
奈良大学大学院研究年報 (13) , 59-76.

# 原子価査定テスト



Valency  
Assessment  
Test

Copyright © 1997 by Med Hafsi

テストにご興味をお持ちの方は、女性サポート相談室までご連絡下さい。  
学内便等にて送付いたします。  
ご返送いただきましたら、採点しフィードバックいたします。

氏 名：  
\_\_\_\_\_

性 別： 男 女  
\_\_\_\_\_

検査月日 年 月 日  
\_\_\_\_\_

以下の 25 の項目は様々な人間関係を描いています。下記の指示に従って、もれなく全ての項目にお答え下さい。

- ①それぞれの項目をよく読んで下さい。
- ②深く考えず、思い浮かんだことを空欄にすぐ書き込んで下さい。
- ③完成した文章は、意味的に理解できるものにして下さい。

試験とは異なり、正解はありません。文章の「うまい」「下手」も関係ないので、全項目にできるだけ早く（1 項目に対して 10 秒程度）記入するよう心がけて下さい。

なお、本検査はあなた自身の考えが重要ですので、他の人と相談したり、答えを見せ合うなどの行為はしないで下さい。では、まず以下の例から始めましょう。

【例】

1. 私は・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。
2. 人生は・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。
3. 私は・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ に属している。

本テストを無断で複製・複写し使用すると法律により処罰されます。

⑪ 次郎が冗談を言い出したとき、グループは

⑫ 太郎が「問題に取り掛かろう」と言ったとき、私は

⑬ グループ内に特に幾人かのメンバーに親しみを感じたとき、太郎は

⑭ 太郎に対して腹が立っていることに気付いた次郎は

⑮ 太郎と花子が 20 分遅れてきたとき、グループは

⑯ グループが太郎の意見をけなしたとき、太郎は

⑰ リーダーが太郎を助けようとしたとき、太郎は

⑱ 幾人かのメンバーが討論に参加しなくなったとき、太郎は

⑲ 太郎が、グループの能力を測るように皆に提案したとき、私達は

⑩ 太郎と次郎は

① 多くの人がお互いのあら探しをしていると気付いた太郎は

② グループがうまく機能しなくなったとき、太郎は

③ 太郎がボーッとしているように見えたとき、次郎は

④ グループは提案されたやり方を試しなかったので、太郎は

⑤ 太郎が私の方に振り向いたとき、私は

⑥ 次郎が「お互いの気持ちを知る必要がある」と言ったとき、太郎は

⑦ グループ内の 1 人だけが、ちやほやされているとき、太郎は

⑧ グループに対して敵意を感じた太郎は

⑨ 太郎が「グループには助けが必要だ」と言ったとき、次郎は

⑩ 太郎がミーティングの途中で帰ったとき、グループは

⑪ 太郎がグループに、問題の根源を考えるように勧めたとき、私は

⑫ 太郎がグループを非難したとき、次郎は

⑬ リーダーが太郎を助けようとしたとき、次郎は

⑭ グループ内の皆が自分勝手な行動をとっていると感じた太郎は

⑮ グループがバラバラになりそうだと感じた太郎は

女性サポート相談室  
活動報告

2010.1～



## 1. 女性サポート相談室の概要



津島地区



鹿田地区

女性サポート相談室は、文部科学省科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」（2009～2011年度実施）における研究サポート体制を整備する1つとして設置された。本事業プランでは、出産・育児・介護等と仕事との両立を支援し、女性が働きやすい環境整備をすることが主要な課題である。

そのために、ハード面だけでなくソフト面からの支援も不可欠となる。女性サポート相談室では、岡山大学の常勤、非常勤を問わず女性教職員、女性研究者そして学生の方々が抱える様々な悩みを受け入れ、相談相手、話し相手が得られることを第一義的目的として、2010年1月に開設された。

相談内容としては、①出産・育児・介護と仕事の両立に関する問題、②教育・研究・修学環境に関する問題など、③メンタルヘルスに関する問題などである。

2012年度からは、文部科学省科学技術人材育成費補助金 テニュアトラック普及定着事業の一環として、継続し活動を行う。

### (1) 利用対象者

本学の女性教職員・研究者・学生。

ただし、女性サポートなどに関する相談であれば男性の方の相談も可能。

### (2) 利用時間

地区	利用時間	場所
津島地区	火曜日 10時～16時	総合研究棟 6階 第5区画
	金曜日 9時～16時	
鹿田地区	月曜日 9時～16時	医学部記念会館 3階

### (3) 相談員の紹介

小畑 千晴（おばた ちはる）

臨床教育学博士・臨床心理士

スクールカウンセラー、女性相談所相談員、教職員や学生のカウンセリング等、女性問題の研究者としての豊富な経験がある。

### (4) 相談室の体制

岡山大学には、精神面に関わる相談・支援を行う組織がいくつか存在する。例えば、

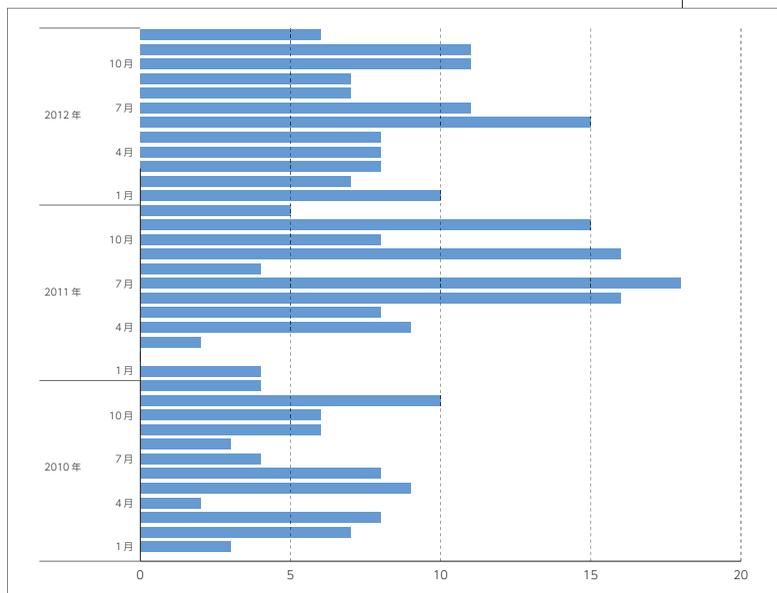


保健管理センター、学生相談室、ハラスメント相談室、キャリアサポート室などである。本相談室では、特に関係する上記4組織との連携を密に図り、情報交換や相互に適切な相談窓口の紹介を行なえる体制づくりに務めている。

## 2. 女性サポート相談室の相談状況

### (1) 月別相談件数

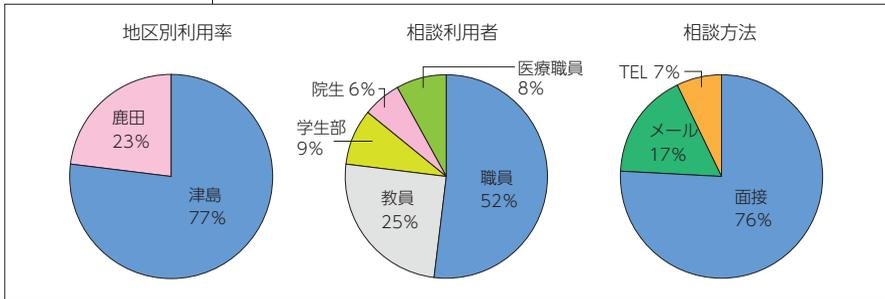
2010年1月の開設から2012年12月末迄の相談件数は284件である。下記の表からみてわかるように、相談件数は増加傾向にある。ポスターやオリエンテーションでの広報活動により周知が行き渡り始めたことや、キャリアカフェや研修等に参加した人がその後、相談に訪れていることが件数の増加へとつながっている。



### (2) 相談利用者・地区別利用者・利用方法

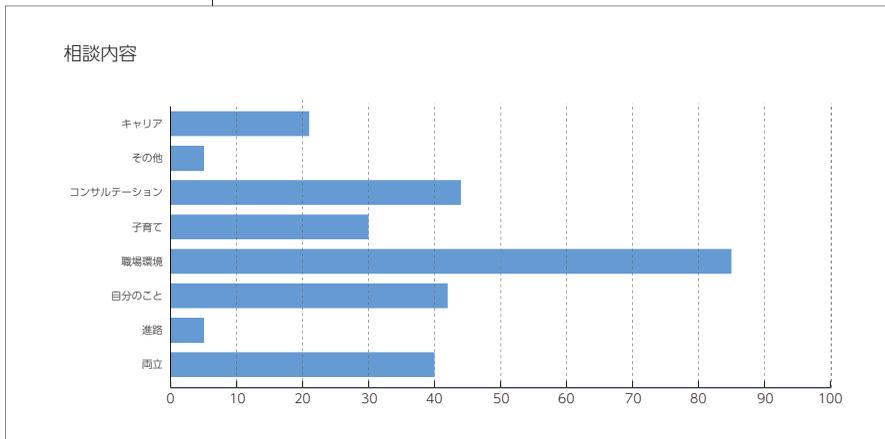
相談室を利用した人は、201名である(2010年度50名,2011年度92名,2012年12月末59名)。

最も利用が多かったのが女性職員であり、全体の約5割を占めた。相談方法は、直接会う面接が最も多いが、時間や場所の問題もあり、メールの利用率も少なくないと言える。地区別利用率については、津島地区に2日、鹿田地区に1日開設していることがそのまま反映された結果となった。



### (3) 相談内容

最も多い相談内容は、主に職場の上司や同僚との人間関係に関する「職場環境」であった。次に、教員や専門職員から、学生対応に関する相談「コンサルテーション」が、「両立」に関する相談では、夫の家事・育児への協力が得られないと訴える内容が多みられた。



### 3. キャリアカフェ実施

目的：個人の心理的支援のためには、カウンセラーとの1対1のカウンセリングも重要であると同時に、グループを使った支援が重要である。そこで、キャリアカフェを定期的開催し、同じような境遇にある女性たちが集まることで、悩みを共感し、情報交換することにより、個人の不安や不満が軽減への一助としたい。

開催形態：昼休み時間を利用 実施回数：13回

対象：女性教職員・学生 参加人数：138名

#### 第1回

2010年5月26日(水)

環境理工学部2階 女性サポート相談室

女子学生を対象に行った第1回目では、女性研究者を目指すにあたっての不安や問題などが活発に語られた。所属分野が違うものの、文系や理系の女性研究者への道には共通した課題が多いことが意見としてまとめられ、その内容を受けて相談員からは日本における女性研究者支援事業の現状と、岡山大学における取り組みを説明した。

#### 第2回

2010年7月30日(金)

本部棟6階 第1会議室

男女共同参画室主催の第2回交流サロンとの合同で開催した。出産予定の方や育児中の方の不安について、子育ての先輩がアドバイスするなど、現実的で参考となる意見が多く出された。

参加者は、それぞれの立場(教員・職員・研究補佐員等)の違いによって、課題が違一方、子育ての悩みを相談したり、情報収集の場所がないという共通の課題も判明し、そうした場所として女性サポート相談室の役割の重要性を感じる会になった。

#### 第3回

2010年9月29日(水)

医学部記念会館3階 女性サポート相談室

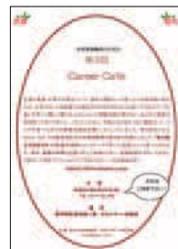
鹿田地区で勤務する教職員を対象に、仕事と子育ての両立に関する課題について話し合った。参加者からは、妊娠・出産に伴う休暇制度を気兼ねなしに使うための職場の理解を求める声があがった。多くの意見が出された中、共通点としてみてきたのは、職場内の適切なコミュニケーションの不足であり、それこそが両立する女性たちへの心強いサポートになりうるとまとめられた。

#### 第4回

2010年12月8日(水)

本部棟4階ミーティングルーム

先輩ママから新米ママに両立中の苦労した点やアドバイスという形で話が進み、



その中で、10年前に比べると随分子育て環境も改善されていることが話題として挙がった。現在子育て中の立場にいと、その不十分さが目が向きがちだが、先輩ママたちに比べると随分整備されつつあることを知ることができた。また、先輩ママたちが苦勞しながら仕事も子育ても乗り越えてきた内容から、元氣や勇氣をもらうことが出来た。



第5回

2011年4月27日(水)

本部棟4階ミーティングルーム

「女性のライフプランを考える 10年後どんな女性でいたい」というテーマで、意見交換を行った。参加者の30代女性から、現在の仕事と子育てに関する大変さや将来への漠然とした不安について次々に語られた。それに対して、こうした問題を乗り越えてきた先輩の女性職員から、自分の体験談を交えて、さまざまなアドバイスがなされた。

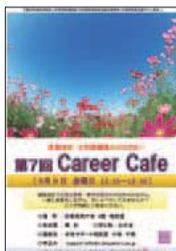


第6回

2011年6月29日(水)

医学部記念会館3階 女性サポート相談室

鹿田地区の女性教職員を対象に開催した。参加者は、1歳児から高校生まで幅広い年代の子どもを抱える母親たちであり、互いに子育ての苦勞を共有することができた。また、周辺保育園や幼稚園についての話に及び、「とても参考になる情報もらった」と感想が寄せられた。

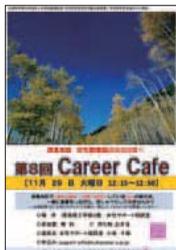


第7回

2011年9月9日(金)

旧事務局庁舎2階 相談室

女性教職員7名が参加し、仕事と子育てにおける両立の苦勞や職場環境について話し合った。参加者の内、職員の女性からは仕事量に対する悩みを、非常勤職員は、雇用そのものへの不安や孤立しやすい職場環境などが意見として上がり、立場によって異なる悩みを互いに理解し合うことができた。



第8回

2011年11月29日(火)

環境理工学部2階 女性サポート相談室

工学部と環境理工学部に所属する女性教職員8名が参加し、女性のキャリア形成と家庭の両立について話し合った。男女共同参画室室長も同席されていたこともあり、ご自身の経験を交えて、働く女性としてそうした状況にどう向き合うべきかを話していただいた。参加者からは勇氣づけられたとの感想が述べられた。

**第9回**

2012年1月31日(火)

理学部1階 教職員リフレッシュルーム

幼児を育児中の女性教職員5名が、子育ての大変さとともに楽しさについて話し合った。親を困らせる子どもたちの行動を互いに紹介しあい、日頃、親にとって苛立ちの原因となっているが、グループで話すことでその意味を理解したり、おもしろさに気づくことができた。

**第10回**

2012年3月19日(月)

かいのき児童クラブ

本室が開催する「第10回キャリアカフェ」と次世代育成支援室が開催する「第3回 育Men's Club」の合同企画として、学内教職員とそのお子さんを対象とした「Family Meeting (ファミリー・ミーティング)」を開催した。学内の教職員12名と1歳から6歳のお子さん13名(10家族)にスタッフ5名、また山陽新聞社より取材記者の方も1名参加され、総勢31名のにぎやかな会となった。お弁当を食べながらの食育ワンポイントセミナー、おすすめ絵本の読み聞かせ会や絵本選びのワンポイントアドバイスなどを行い、親子で楽しめる時間が過ごせた。

**第11回**

2012年6月1日(金)

【第11回】 総合研究棟6階 女性サポート相談室

新年度1回目となるキャリアカフェを開催した。昨年度、環境理工学部対象で実施したのに引き続き、今回は工学部の女性教職員の方に限定し、同じ学部で働く女性という視点から、さまざまな意見交換を行った。また、同じ所属とはいえ、互いに知らない人も多く、参加者にとって良いコミュニケーションの場となった。

**第12回**

2012年10月31日(水)

【第12回】 総合研究棟6階 女性サポート相談室

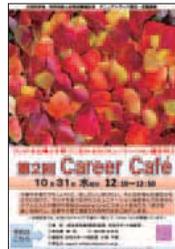
今回のキャリアカフェは、ランチを食べながらコミュニケーション論を学ぶとい趣旨で行った。人と人との繋がりを結びmissing Linkにスポットを当てた「原子価論」を紹介し、職場や家庭・子育てに活かせるコミュニケーション方法を紹介した。参加者からは、「職場に帰って原子価論を話したらとても盛り上がった。」「自分の原子価を知ることができて、今後の参考にしたい」などの感想が寄せられた。

**第13回**

2012年12月6日(木)

【第13回】 かいのき児童クラブ

本室が開催する「第3回キャリアカフェ」と次世代育成支援室が開催する「第2回 育Men's Club」の合同企画の第二弾として、学内教職員とそのお子さんを対象とした「Family Meeting (ファミリー・ミーティング)」を開催した。今回はクリスマスをテーマにリトミックでの躍りや絵本の読み聞かせなどを体験しながら、子育て中の悩みなどを話し合い、交流を深めることができた。



## 4. 学内外研修活動



### (1) メンタルヘルス研修

2012年8月9日(木)

創設50周年記念館

目に見えない人と人との繋がりを知る 原子価論から見た人間関係

学内教職員と学生を対象にしたメンタルヘルス研修を実施した。

化学における「原子価」の概念を心理学に転用した「原子価理論」の立場から、どのような人と人との繋がりがメンタルヘルスに影響を及ぼすのかについて説明を行った。研修の一環として、自分が他者とどのようにつながっているのかを把握するための心理検査「VAT」の簡易版を実施し、自己採点によって、自分の原子価パターン（つがい・闘争・逃避・依存）が明らかになると、それぞれの説明を聞いていた参加者たちは、とても納得していた様子であった。

研修後の質疑応答やアンケートからは、「自分や家族の繋がり方を知ることができた」「知識でストレスを軽減できると感じた」「とても勉強になった」などの感想が寄せられた。

### (2) ハラスメント研修

2012年10月17日(水)

環境理工学部 104 講義室

より良い教育環境にむけて - 原子価論からみた学生行動の理解 -

環境理工学部の教職員を対象に、学生理解とハラスメントの予防を目的とした研修を行った。昨今学生との安定した心理的關係が築けないことにより、教育や研究活動が妨げられているケースが増えているため、原子価論という観点からみた学生の行動理解とその対応について説明した。終了後には、教員として学生に対する具体的な対応方法についての質問などが多く寄せられた。

### (3) 筑波大学 ハラスメント防止セミナー

2012年12月11日(火)

筑波大学中央図書館 集会所

ハラスメント予防にむけて - 原子価論からの理解 -

筑波大学の教職員および学生を対象にしたハラスメント予防セミナーが開催された。前半に弁護士の立場からみた、この問題の判例について説明があった後、臨床心理学、とりわけ原子価論の観点からその予防について語った。予防を考えるために、原子価論の立場からハラスメントの原因と分類を行い、その行動の意味や目的について説明した。



## 5. 学内・県内外の関係機関との連携活動

### (1) 岡山県 女性の人権相談機関連絡会

目的：関係する相談機関で構成し、情報交換、事例検討などを行い、女性の人権に対する相互理解と相談員の資質向上を図ること。

構成機関：岡山県男女共同参画センター・岡山県女性相談所・岡山県内市町村女性センター・岡山県警察本部・岡山弁護士会等

日時：2011年4月23日(土) 10:00-12:00  
7月1日(土) 13:30-16:30  
2012年1月28日(土) 10:00-12:00  
4月28日(土) 10:00-12:00  
9月15日(土) 10:00-12:00

場所：岡山県ウイズセンター・岡山県弁護士会館

### (2) 国立女性教育会館主催 NWEC フォーラム 参加 筑波大学・奈良先端科学技術大学院大学との共同発表

日時：2011年10月21日(金) 15:30-17:00

場所：国立女性教育会館

対象：一般

参加者：40名

発表タイトル：男性に対する相談体制の確立へー女性研究者支援を通じてー

発表者：筑波大学 遠藤雅子 准教授 沖永友貴枝 相談員  
奈良先端科学技術大学院大学 岡本拓士 准教授

内容：女性研究者支援モデル事業で相談室を設置した他の2大学  
(筑波大学・奈良先端科学技術大学院大学)と共に、相談室に焦点を当ててその活動報告と課題を発表した。



### (3) 岡山県男女共同参画推進センター・学生支援センター 学生相談室との共催事業 DV (Domestic Violence) 防止講演会の開催「被害者・加害者にならないために」

日時：2011年11月25日(金) 13:00-14:00

場所：一般教育等B棟B32

対象：学生・教職員・一般

参加者：120名

内容：NPOさんかくナビ理事長の貝原己代子氏が、DV被害者女性とその子供の支援活動に従事されてきた立場から、DVの「被害者・加害者にならないために」と題し講演。  
司会を担当した。



#### (4) 内閣府 2011年度 地域における男女共同参画連携支援事業

目的：地域における様々な課題について、地方公共団体や大学等が、男女共同参画の視点を生かし、連携・協同しながらその解決に取り組むこと。

期間：2011年8月～2012年3月

テーマ：「地域における女性のための安全・安心のまちづくり  
性犯罪被害の根絶を目指す地域ネットワークづくり」

連携団体：岡山市（男女共同参画課）・新見公立大学・ノートルダム清心女子大学・吉備国際大学等

内容：性犯罪被害の実態把握を目的としたアンケート調査を実施。その結果を踏まえて、シンポジウムを開催し、市民への周知を行った。さらに、男女共同参画という視点から、女性の性犯罪被害者支援策を検討した。メンバーとしてアンケート実施やその結果考察に助言を行った。  
またリーフレット作成には責任者として関わった。

#### 6. 他機関における事業活動への参加および情報交換

概要	筑波大学 男女共同参画推進室 視察
実施日	2010年12月3日(金)
場所/主催	筑波大学
対応者	男女共同参画推進室 准教授 遠藤雅子氏 相談員 沖永友貴枝氏
実施内容	情報交換

概要	香川大学 男女共同参画推進室 視察
実施日	2011年1月14日(金)
場所/主催	香川大学
対応者	男女共同参画推進室 特任教授 長安めぐみ氏
実施内容	情報交換

概要	島根大学 男女共同参画室 視察
実施日	2011年1月18日(火)
場所/主催	島根大学
対応者	男女共同参画推進室 室長 澤アツ子氏、特任講師 大西俊江氏、 草野知子氏
実施内容	情報交換

概要	岡山県男女共同参画推進室 ウイズセンター 視察
実施日	2011年1月19日(水)
場所/主催	岡山県男女共同参画推進室 ウイズセンター
対応者	所長 水野洋子氏 相談員 国田郁美氏 永井律子氏 妹尾敬恵氏
実施内容	情報交換

概要	女性研究者研究活動支援事業合同シンポジウム 女性研究者支援に向けた持続可能な取組の実現 ～「モデル的取組」から「研究とライフイベントの両立」～
実施日	2011年11月1日(火) - 2日(水)
場所/主催	筑波大学 東京キャンパス文京校舎
対応者	筑波大学 男女共同参画推進室
実施内容	シンポジウム参加
概要	DV相談担当職員専門研修会
実施日	2011年12月16日(金)
場所/主催	岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館 301会議室
対応者	岡山県女性相談所
実施内容	DV研修参加

概要	第2回四国女性研究者フォーラム
実施日	2012年1月27日(金)
場所/主催	愛媛大学 南加記念ホール(城北キャンパス)
対応者	愛媛大学
実施内容	シンポジウム参加

概要	DV相談担当職員専門研修会
実施日	2012年7月30日(月)
場所/主催	岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館 301会議室
対応者	岡山県女性相談所
実施内容	DV研修参加

概要	第4回中国四国男女共同参画シンポジウム
実施日	2012年11月30日(金)
場所/主催	かがわ国際会議場 高松シンボルタワー棟 6階/香川大学
対応者	香川大学
実施内容	シンポジウム参加

概要	筑波地区独立行政法人相談担当者ネットワーク会合
実施日	2012年12月11日(火)
場所/主催	筑波大学 中央図書館集会所/筑波大学
対応者	筑波大学 沖永友貴枝氏
実施内容	情報交換会参加 参加メンバー 森林総合研究所 安部 久氏 農業生物資源研究所 渡邊紳一郎氏/川田真佐枝氏 農業環境技術研究所 山中武彦氏 農業・食品産業技術総合研究機構 水町功子氏/久城真代氏

## その他関係資料

**ダイバーシティ推進本部  
男女共同参画室の活動**

- ▶ 男女共同参画意識の啓蒙・立案
- ▶ 研究サポートシステム及び研究推進支援  
人材登録バンク及び相談窓口の設置  
機関・介護との協立サポート対策  
メンター養成研修の実施  
男女共同参画の視点からの評価体制の構築
- ▶ 女性研究者の個人を志向し「労働環境対策」  
意識啓蒙の啓発・推進
- ▶ 広報活動 シンポジウム・サロン等

*Career Café Open!*



女性サポート相談室では、女性研究者、女子学生の皆さんと一緒にお茶を飲みながら話せる機会としてCareer Café を定期的に開催しています。詳しくは、  
URL: [www.okayama-u.ac.jp/user/3rd/diversity/dcajya/](http://www.okayama-u.ac.jp/user/3rd/diversity/dcajya/) まで。

### 女性サポート相談室

WOMEN SUPPORT CONSULTING ROOM



岡山大学に所属する  
すべての女性にも  
応じます。

**お問い合わせ先**



**ダイバーシティ推進本部  
男女共同参画室**

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号  
TEL&FAX: 086-251-7011

相談の受付は、最新のQRコードをご利用下さい。





岡山大学は労働者として働く者の協立を積極的に推進する為、  
専業主婦・専業主夫として働くパートナー企業に認定され、次世代  
女性づくり（&みんな）を支援しました。



**岡山大学**

ダイバーシティ推進本部  
男女共同参画室



## 女性のための相談室

大学に所属するすべての女性教職員・女性研究者・女子学生の方が対象

(但し、女性サポート等に属する相談であれば、男性の相談室)

### こんな気持ちがあれば、まずは気軽に相談してみませんか？

① 悩み、抱えていらっしゃるごこと

- ① 周りに女性が少ないので、相談相手が見つからない。
- ② 困ったことがあるが、どこに相談したらいいの。
- ③ 仕事と育児・介護の両立について相談したい。
- ④ 育児の時の学内でのサポート情報がほしい。
- ⑤ 職場、研究室内の人間関係で困っている。

② これから、お悩みのこと

- ⑥ 今後の研究を続けようか迷っている。
- ⑦ 今後の進路やポジションについて、キャリアやライフプランについて。
- ⑧ 研究しながら、子どもを育てるの不安。
- ⑨ 研究者を目指そうか迷っている。



### 相談の流れ

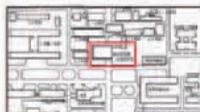
- ① 電話かメールにてご連絡ください。  
志前・遠見丸・徳川(鹿田)の平日(第二希望まで)にお返事があります。
- Tel : 086-251-7011** (総合受付：男女共同参画室)
- Mail : support-w@adm.okayama-u.ac.jp**
- ② 後ほど、相談員が連絡します。

※ 相談員：小畑 千穂(おのづか ちほ) 臨床教育学博士・臨床心理学士(心理学の専門)  
一人では解決しない、なかなか思うように解決への糸口が見えてくれない場合は、性別的に異なる相談員(男性)に、メールや電話での相談も可能です。その場合は、ご連絡ください。

## 津島地区

相談日：  
火曜日/10:00～16:00  
金曜日/9:00～16:00

場所：総合研究棟6階



## 鹿田地区

相談日：  
月曜日/9:00～16:00

場所：医学部記念会館3階



平成21年度 文部科学省科学研究費補助金特別助成費「女性研究者支援モデル育成」  
学野・岡大発 女性研究者が育つ環境プラン



## 編集後記

女性サポート相談室が今年度、新たな取り組みとして教職員の方々への研修を開催するきっかけになりましたのは、男女共同参画室に所属する女性職員のAさんの提案からでした。報告書にご紹介した原子価論でいえば、私の主な原子価は「逃避」ですので、積極的な自己アピールは苦手で、目立つことは避けたいと思っていました。しかしAさんの強引とも言える後押しのお陰で開催したのが8月のメンタルヘルズ研修であり、その後学内・学外での研修活動へと広がり、ついには報告書という形で実を結ぶことになりました。それ以外にも、研修に参加され原子価論に興味をもたれた方が相談室を訪れるようになったことも波及効果の1つでした。

そうした中のおひとりである女性Bさんは、夫婦関係についてご相談にこられました。仕事をしながら子育てををする大変さや自分の将来のことを夫にいくら言葉で伝えても理解してもらえず、苦しさを感じているとのことでした。幾度かのカウンセリングの後、この理論からみて夫婦が今どのような繋がりになっているかを説明し、パートナーにとって最も理解できるような伝え方、つまり相手の原子価にフィットするような方法に変えてみたらどうかとアドバイスしました。Bさんは提案したある方法をパートナーに試したところ、次の日から家事や育児を手伝うようになり、劇的な変化が起こったとの報告がありました。研修への参加を契機に、Bさんご夫婦の繋がりが良好になり「絆」が深まったことは、臨床心理士としてこの上ない喜びとなりました。

しかしながら、昨今「絆」という言葉は、人と人との繋がりの大切さやその温かさのみが強調されているようですが、報告書をお読みになって、決して美しく愛情溢れたものだけではないこともおわかりいただけたのではないかと思います。絆が「人と人との繋つことのできない繋がりに」であるが故、人の心を苦しめ悩ませることになることも忘れてはなりません。

この報告書でご紹介いたしました原子価論は、本理論の入口にすぎません。少しでも多くの方に興味をもっていただき、絆に関する理解を深めていただくことで、すぐそばにある不健康な繋がりによって生み出されるストレスが少しでも軽減されることを願っております。

最後に、女性研究者支援の一環として設置された女性サポート相談室が開室されて、3年あまりが経ちました。室長である沖陽子先生を始めとして多くの先生方、職員の皆様方に支えと、本相談室に関わる多くの学内外関係者皆様のお陰で活動を継続させていただいております。



そして、本研修の内容および報告書作成にあたっては、長年にわたりご指導いただいております奈良大学 HAFSI MED 教授、東京女子大学 高島克子教授にもアドバイスをいただきました。また、奈良大学大学院 研究員 二村元康君にもご協力いただきました。この場をお借りしまして皆様にご心から感謝申し上げます。

小畑 千晴

文部科学省 科学技術人材育成費補助金 テニユアトラック普及・定着事業

2013年3月発行

編集・発行 国立大学法人 岡山大学

ダイバーシティ推進本部

男女共同参画室 女性サポート相談室

連絡先 〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

TEL: 086-251-7011

FAX: 086-251-7033

E-MAIL: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/index.html>



